

鑑定評価書（令和 6 年地価調査）

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	大城不動産鑑定事務所
座間味(県) - 1	沖縄県	沖縄	氏名	不動産鑑定士 大城 直哉

鑑定評価額	4,940,000 円	1 m ² 当たりの価格	14,400 円 / m ²
-------	-------------	-------------------------	---------------------------

1 基本的事項

(1) 価格時点	令和 6 年 7 月 1 日	(4) 鑑定評価日	令和 6 年 7 月 1 日	(6) 路線価	[令和 6 年1月]	円 / m ²
(2) 実地調査日	令和 6 年 6 月 20 日	(5) 価格の種類	正常価格	路線価又は倍率	倍率種別	1.1 倍
(3) 鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等	島尻郡座間味村字座間味座間味 1 4 8 番				地積 (m ²)	343	法令上の規制等
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況	接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況	都計外	
	1 : 1.2	住宅 B 1	農漁村住宅のほか民宿等も見られる既成住宅地域	東 4.5 m 村道、三方路	水道、下水	座間味港 270 m	(その他) 土砂災害警戒区域	
(2) 近隣地域	範囲	東 30 m、西 30 m、南 70 m、北 70 m		標準的使用	低層住宅地			
	標準的画地の形状等	間口 約 17 m、奥行 約 20 m、規模 340 m ² 程度、形状 長方形						
	地域的特性	特記事項	特記すべき事項はない	街路	基準方位 北 4 . 5 m 村道	交通施設	座間味港 北方 270 m	法令 都計外 土砂災害警戒区域 規制
	地域要因の将来予測	一般住宅等を中心とする既成住宅地域で、地域要因に特段の変動はない。観光関連産業の需要は堅調であるが、取引慣行から供給は低位。拡大基調が継続する観光を背景に地価は上昇傾向で推移するものと予測する。						
(3) 最有効使用の判定	低層住宅地				(4) 対象基準地の個別的要因	方位 三方路	+3.0 +2.0	
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格	14,400 円 / m ²					
	収益還元法	収益価格	/ 円 / m ²					
	原価法	積算価格	/ 円 / m ²					
	開発法	開発法による価格	/ 円 / m ²					
(6) 市場の特性	同一需給圏は、座間味村及び隣接する渡嘉敷村内の住宅地域の存する圏域。主たる需要者は村内居住者や地縁・血縁者のほか、移住者、村外事業者も見られる。供給に限られ、地域社会維持の観点から地縁・血縁者中心の取引慣行が認められる。海岸近く等の観光関連需要、規模及び利用目的等によりばらつきが大きく、総額面の中心価格帯の把握が難しいが、基準地と同程度の規模、利用目的で坪当たり 4 万円 ~ 6 万円程度が需要の中心となる価格帯と判断される。							
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	比準価格は、規範性を有する取引事例に基づき試算しており、市場の実態を反映し実証的である。一方、民間の賃貸住宅の市場性が未成熟である事から収益価格の試算は行わなかった。近隣地域は自己使用目的の需要が中心の地域で、需要者の意思決定にあたっては比準価格が重視されるものと判断される。以上より、市場性を反映した実証的な比準価格を採用し、指定基準地との検討を踏まえ鑑定評価額を決定した。							
(8) 公規価示準格価と格しをた	代表標準地 標準地	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格 (円 / m ²)	内 街路 交通 環境 画地 行政 その他	
	標準地番号	-	[]	100	100	[]	標準 交通 0.0 地域 交通 0.0 要 環境 -5.0 因 行政 0.0 その他 0.0	
(9) 指か定ら基の準検地討	指定基準地番号	時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格 (円 / m ²)	内 街路 交通 0.0 地域 交通 0.0 要 環境 0.0 因 行政 0.0 その他 0.0	
	渡嘉敷(県) - 2	[101.6]	100	100	[105.1]	14,100	標準 交通 0.0 地域 交通 0.0 要 環境 0.0 因 行政 0.0 その他 0.0	
(10) 対年ら象標の基準検準価討地格の等前か	- 1 対象基準地の検討 継続 新規 前年標準価格 13,900 円 / m ²		価 変 動 形 状 成 立 要 因 の	〔 一 般 的 要 因 〕	コロナ禍を中心とする人口減少傾向は弱まっている。宅地供給が少なく地縁的嗜好性等によるばらつきがあるが相対的な宅地需要は堅調。			
	- 2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討 代表標準地 標準地 標準地番号 - 公示価格 円 / m ²				〔 地 域 要 因 〕	地域要因に特段の変動はない。既存集落に存するが観光関連事業に基づく需要も見られる。村内の取引慣行の影響などから供給は少ない。		
変動率 年間 +3.6 % 半年間 %				〔 個 別 的 要 因 〕		個別的要因に変動はない。		

鑑定評価書（令和 6 年地価調査）

Table with 5 columns: 基準地番号, 提出先, 所属分科会名, 業者名, 大城不動産鑑定事務所. Row 1: 座間味(県) - 2, 沖縄県, 沖縄, 氏名, 不動産鑑定士 大城 直哉

Table with 4 columns: 鑑定評価額, 5,080,000 円, 1㎡当たりの価格, 12,300 円/㎡

1 基本的事項

Table with 6 columns: (1)価格時点, (2)実地調査日, (3)鑑定評価の条件, (4)鑑定評価日, (5)価格の種類, (6)路線価, [令和6年1月], 円/㎡, 1.1倍

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

Main table with 10 rows (1) to (10) detailing land characteristics, valuation methods, and market analysis. Includes sub-tables for (3) and (5).